

学校名	研究課題	研究手法
長田町小学校	算数	指導的評価活動

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1：目的やねらいを明確にした「説明し合う場の設定」

(具体的な取り組み)

考えを伝え合う場をペア・グループ・全体と設定し、研究授業や相互授業参観で参観・協議してきた。取り入れる場として「学習の見通しを持つ場面」「自力解決後」「混沌としている場面」「考えを確認するまとめの前や後の場面」「適用問題を確認する場面」といった具体的な場面を共通理解したうえで、児童の発達段階や実態に応じ、低学年ではペア学習を中心に、高学年ではペア・グループ学習を取り入れてきた。



写真 『ペア学習（低学年）』

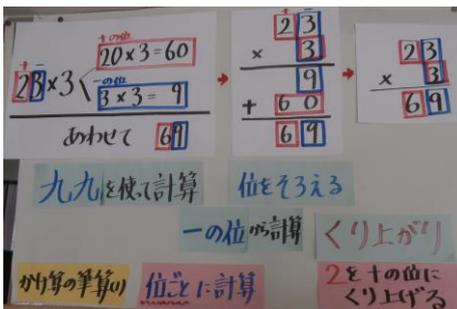
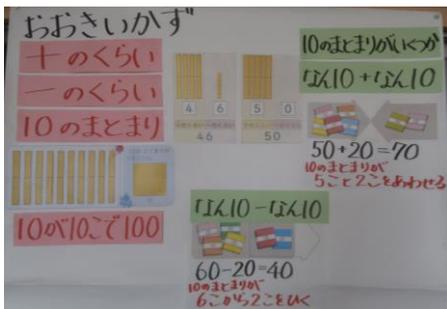


写真 『グループ学習（高学年）』

(2) 重点2：児童自ら友達とかかわり合うことを通して「わかった」になるための「図・式・言葉等をつなぐ教師の支援」

(具体的な取り組み)

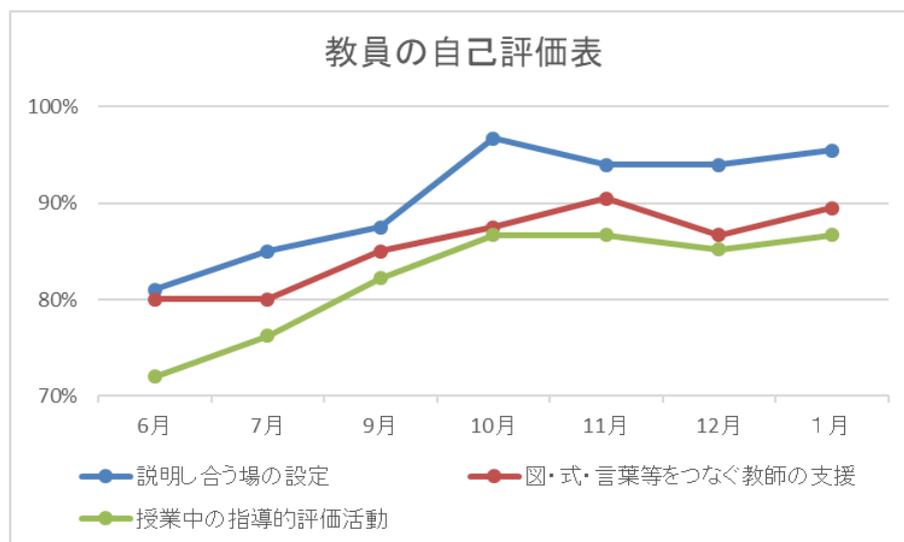
具体的な手立てとして『発問や問い返し』『指示』『ワークシート』『板書』『指名順』『説明アイテムの宝箱』『ホワイトボードの活用』に取り組んだ。また、研究授業の中で視点の焦点化を図るために、本時における指導的評価活動を指導案の中に明記することとし、授業事前研や整理会の中でも検討できるようにした。



写真『説明アイテムの宝箱』

2 取組の検証

(1) 教員の指導力を自己評価する「学力向上の自己評価表」より



教師が指導力を自己評価する学力向上の自己評価表の『説明し合う場の設定』『図・式・言葉等をつなぐ教師の支援』『授業中の指導的評価活動』の3項目とも、肯定的回答が向上した。教師が日々の算数科の授業の中で、児童の思考の価値付けを意識的に行

い、児童の「わかった」を目指して手立て・支援を行ってきたことがわかる。

(2) 児童のアンケートより

	1学期末	2学期末
自分の考えを持ち、理由をつけて説明することができる	87%	91%
話し合いをして、考えを深めることができている	89%	93%

(3) 検証結果

(1) (2)の結果より、教師の手立てにより、「自分の考えを持ち説明することができる」「話し合いによって考えを深めている」と実感している児童が増加した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・説明し合う場を設定し、児童の思考を価値づけていく手立てをとることにより、児童同士がかかわり合いながら学び、理解を深めることができた。
- ・全体研究会や分科会で研究授業を行い、共通理解をはかりながら取り組んできたことや、毎月自己評価表によって教師一人一人が自己の授業を見直してきたこと、さらに自己評価表に記述された『効果的だった手立て』『改善していきたい点』を一覧にし、全教員で共有できるようにしたことが、指導力向上につながった。

(2) 課題

- ・指導的評価活動について、価値づけていく児童の姿を具体的に絞ることで、学校研究として共通理解をはかり、目指す姿「全員がわかった」によりつなげていけるようにする。
- ・説明し合う場の設定について、児童にとっての必要感や目的をしっかりと持たせるための手立てをとり、より充実させていけるようにする。